

「第36回城東サロン」
河内の郷土文化サークルセンター

ミニシンポ 「陸軍八尾大正飛行場」を語る

陸軍大正飛行場（現在の八尾空港）は、太平洋戦争が始まった1941年（昭和16）に運用が開始されました。当時、東洋一の規模をもつ飛行場でした。ここには関西を中心に四国・中国から中部地方を担当エリアする第11飛行師団が置かれ、軍用機の修理や整備を行う大阪航空廠も設置され、日本陸軍の「本土防衛」の中核の基地でした。

今回は、大正飛行場とその周辺地域に遺された戦争遺跡を通じて、大正飛行場が地元・八尾の人々にとってどんな意味をもったかを考えます。

報 告

「陸軍大正飛行場と戦争遺跡」 大西 進（河内の戦争遺跡を語る会）
「記憶遺産としての戦争遺跡」 浅野詠子（ジャーナリスト）

討 論

大西 進、浅野詠子、駒井正明（大阪府文化財センター）、太田 理（河内の戦争遺跡を語る会）
(司会) 小林義孝（摂河泉地域文化研究所）

日 時 6月23日（土） 13時半～16時

会 場 大阪商業大学 図書館4階 ネットワークチャールーム

参加費 無料

連絡先 摂河泉地域文化研究所 TEL090-3860-5200（小林）

追 伸

大西 進著『日常の中の戦争遺跡』（アットワークス 2012年）が発刊されます。大正飛行場を中心に八尾の戦争遺跡を調査・研究しました。人々の生活が戦争に覆われた敗戦直前の〈本土決戦〉の喧騒の痕跡など、あの戦争を見直すきっかけになる内容と思います。

当日、会場でお披露目をいたします。予価2600円。